

令和5年度第1回 静岡市立の高等学校特色化・魅力化検討委員会会議録

- 1 日 時 令和5年8月21日（月） 午後2時00分～午後3時20分
- 2 場 所 静岡市立高等学校 会議室
- 3 出席者 (委員)
志村委員長、金親副委員長、板倉委員、小俣委員、阪口委員、
武友委員、望月委員、山内委員
(事務局)
赤堀教育長、青嶋教育局長、渡邊教育総務課長、
大瀧総務係長、秋山主査、佐藤管理主事、田中管理主事
(静岡市立高等学校)
飯田校長、佐野副校長、山本教頭、加納事務長、戸塚教諭、
山田教諭
(静岡市立清水桜が丘高等学校)
神田校長、江間副校長、村田教頭、岡事務長、内海教諭、
川島教諭、北村教諭、金原教諭、小泉教諭、富田教諭、
松下教諭
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 題 (1)委員長選出
(2)これからの高等学校に期待することについて

6 会議内容
(1)委員長選出

①各委員の自己紹介

板倉委員	<p>静岡大学グローバル共創科学部の教員をしております板倉と申します。</p> <p>私の専門は法学、中でも国際法を専門としています。今回ご縁がありまして、本委員会委員として参加させて頂くことになりましたが、正直なところ、教育問題について詳しい訳でもなく、また高校について詳しい訳でもありません。国際法をやっているということ、グローバル共創科学部の教員であることから、グローバルな視野から意見を出せるということで、話が回ってきたのではないかと理解しています。</p> <p>いろいろと、具体的なこと、存じ上げないこともたくさんあるかと思いますが、皆様から教えて頂きながら、また、静岡大学の方も、今後一層地域との繋がりがつつ、人材育成、静岡ならではの人材育成に努めて行こうとしているところですので、高校の皆様の取り組み等も教えて頂きながら、一緒に考えていければと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
------	---

<p>小俣委員</p>	<p>皆さんこんにちは。静岡市清水区で、企業用のお弁当の製造販売をしま「こう月」の小俣と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>今は、静岡市内を中心に約 800 社の企業様と付き合い頂いて、1 日約 3000 食以上のお弁当を作らせて頂いております。その他、清水エスパルスのIAIスタジアムの出店やベルテックス静岡のホーム戦での販売、その他のイベントの事業もしております。</p> <p>今回、地元愛・企業家精神代表ということで、難しいことはさっぱり分からないのですが、自分なりに経営者の1人として意見を言えたらいいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>金親委員</p>	<p>皆様こんにちは。常葉大学入学センターの金親徳行と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>私は2年前の3月まで、高校の教員を38年間やってきました。</p> <p>静岡商業高校の校長を最後に定年退職しまして、常葉大学で2年目ということになります。</p> <p>現在は高校を回って、高校生にガイダンスをしたり、常葉大学の魅力や特色を話したり、あるいは入学センターで事務的な仕事をしております、このお話を頂いたときに、桜が丘高校に商業科があるということで、私は38年間商業の教員をやってきたものですから、そこで少しでもお役に立てればいいなということで、お受けしました。今の時代、知識は Google で、技術は YouTube で、とにかく志さえあれば、その気になれば、いくらでも学ぶチャンスはある時代です。</p> <p>如何にその気にさせるか、志を持たせるか、というところが大事になってくるかと思うので、そういう仕掛けであるとか、そういう教育環境を作るために、何か意見を出せればという風に思っています。よろしくお願いいたします。</p>
<p>阪口委員</p>	<p>静岡県産業振興財団の阪口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>私自身は5年前に静岡方に移住して来まして、実は静岡で教育を受けていないという意味で、一番のよそ者かなと思っています。前職はシンクタンクで、そこではプログラミング教育やIT教育の導入といったところをテーマに政策提言させて頂いたこともあって、こちらに来てからも、県の方で行っているプログラミングコンテストとか、そういったもののお手伝いをしています。</p> <p>静岡県のICT教育の推進を応援している立場だったりしますので、今回のお声掛け頂いたことは、すごく光栄だと思っております。</p> <p>未来のこの静岡の高校生がより輝けるように、微力ながらもお手伝いできることは凄くありがたいなと思っておりますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>志村委員</p>	<p>皆様こんにちは、常葉大学法人本部の志村剛和と申します。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>私は令和3年3月に県立静岡高等学校の校長で退職して、現在、常葉大学の附属3中高の教職員研修の手伝いというか、2 人ペアでやっていますが、手伝いをしているということで、この学校教育にも、中学校、小学校、幼稚園にもいろいろ訪問する形で、静岡市の教育の他、私立の教育にも関わるといことで、退職しても、引き続き教職に関わらせて頂くという意味では、恵まれた仕事をさせて頂いていると思います。</p>

	<p>平成26年から3年間、静岡市立高等学校の校長としても勤務させて頂いたということで、私 がそこを出てから、はや何年かになるわけですが、“どんなふうになっているのかな” 、“どのように成長しているのかな”ということが楽しみであります。</p> <p>また、清水桜が丘高校におかれましては、私の市高の前が、清水南高校で仕事をしてお りました関係で、やはり、その地区での様子を伺っております。</p> <p>さらに、サッカーの副顧問としてずっと携わらせて頂いたこともあって、清水商業の黄金時 代のサッカーは頭に焼き付いているところです。</p> <p>そういう意味で、部活動のあり方であったり、SSH のあり方であったり、含めて二高のあり方 等に関わることができて、本当にご縁を感じているところですし、非常に嬉しく思っている ところです。どうぞ皆様よろしく申し上げます。</p>
<p>武友委員</p>	<p>株式会社ナナクレマの武友と申します。</p> <p>本日はこのような機会を頂いて、ありがとうございます。</p> <p>普段は静岡県内の中小企業の皆様を対象に、採用支援の仕事をさせて頂いておりま して、七間町で就活カフェ“NANA-SHOKU”という静岡の大学生や専門学生、短大生が気 軽に就活の相談に来れるお店を経営しております。</p> <p>また別に、非常勤として、静岡産業技術専門学校ですとか、浜松日建、横浜日建という建 築の専門学校のキャリアも担当させて頂いています。普段は、学生という高校生よりも少し 上のお兄さんお姉さん達と、かなり体当たりで関わっているという部分がありますので、今回 お招き頂いて、このような委員に選出して頂いていますので、大学生の目線でいろいろな 悩みですとか、彼ら彼女たちが打ち当たっている静岡県内での就職を含めた壁について も、いろいろと意見が出せたらなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>望月委員</p>	<p>株式会社天野回漕店の望月と申します。</p> <p>今回のこのような委員に選ばれて、非常に僣越、非常にありがたく思っております。</p> <p>私は約25年前に天野回漕店に入社し、これまで静岡(清水ですね)の産業である清水港 を担い、国際貿易を担当してまいりました。</p> <p>国際貿易といっても幅が広く、今非常に活気づいています客船の入港であったり、あとは 静岡・清水港の特色である冷凍マグロだったり、いろんなところで国際貿易を担ってきた、 そのような経験を何か形に生かせればいいかなということで、参加させて頂きました。</p> <p>この経験をどう生かせるかというところ、実社会との連携という部分で、多少なりとも微力なが らもお手伝いできないかなというところで、またいろいろ皆様にご協力頂きたいなと思 うところもございますので、今後ともよろしくお願いいたします。</p>
<p>山内委員</p>	<p>TOKAI ケーブルネットワークの山内でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>私は、東海ケーブルネットワークの次世代成長戦略本部企画部の部長を拝命しておりま して、具体的にどんなことをしているかと言いますと、最近では、静岡市のシェアサイクルの パークルってものの企画運営や、駿府城公園の葵船ですとか、あとは中心市街地の活 性化に関わる新しい施策をいろいろ立案して、静岡市さんと共同で事業運営を進めていま す。</p>

	<p>元々、大学卒業後、新卒で TOKAI グループに入社してから、東京、栃木、茨城、あと海外駐在で、中東の方に行ったり、ロンドンに行ったり、海外もずっと長くて、10年ほど前に静岡に高校卒業して以来戻ってきたということです。私自身は、そういったどちらかというところからの静岡を見ている期間が長かったものですから、そういったところで何かお返しできればと考えております。また、実はこちらの静岡市立高校は母校でもありまして、今まであまり地元へ貢献するというのが、30代はあんまり意識したことがなかったのですが、地元に戻って来て、新規事業立ち上げろと言われて、特に静岡市内の活性化に資するものをやるよという会社からミッションを受けて、パルクルや葵船をやってきたのですが、それに加えてこういった縁あった学校に、何か少しでも貢献できる機会を頂けたことは、ありがたく思っております。</p> <p>全く専門性がないものですから、きっと、とんちんかんな発言をしてしまうのではないかなと自分でも不安なところもあるのですが、一生懸命やらせて頂きますので、お願いいたします。</p>
--	--

②委員長・副委員長の選出

<p>山内委員</p>	<p>皆様のご経歴など簡単に自己紹介を頂きまして、これまで広く長く教育に携われてきたこと、こちらの市高の校長先生もやられたということで、志村委員がいいのではないかなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。</p>
<p>志村委員</p>	<p>ご縁もありますので、喜んでお引き受けいたします。</p> <p>(副委員長の指名)</p> <p>金親委員にお願いしたいと思います。理由はやはり高等学校の校長のご経験があり、最後の年、静岡商業高等学校でご退職されて、商業教育に長い間尽力されてきたことごさいます。</p> <p>今回、静岡市立高等学校と清水桜が丘高等学校、特に商業教育に関しては、私は先ほど自己紹介で申し上げませんでした。理科教員であり、商業教育については、十分な知識を持ち合わせておりません。そういう意味では、金親先生にフォローして頂きながら、私に何かあったときには、金親先生にお願いしようと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>金親委員</p>	<p>同じ高校の教員の経験があるということで、志村先生には遠く及びませんが、一生懸命やらせてもらいます。</p>

(2) これからの高等学校に期待することについて

<p>志村委員長</p>	<p>《要約》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スクールミッションとポリシーの策定についての志村委員自身の経験を共有(学校によって温度差あり) ● スクールミッションとポリシーを作る過程で、先生方の目線合わせであったり、育てたい資質能力を共有し合うことであったりがとても大事。検討委員会を契機に各学校で是非実施してほしい。
---------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ● 検討委員は、“こういうことは、こういう視点が欲しいのではないか。”、“こういうことだったら、それぞれの委員が持っているフィールドでお助けできる。”、更には視点を加えて頂く・・・など、そういう形でこの委員会を進めていき、11月7日のスクールミッションへの答申に繋げる。また、スクールポリシーについては1月の答申に繋げていく。 ● 設置者と学校が、またこの委員会を絡ませながらスクールミッションとポリシーを作成することの確認。 ● 委員会メンバーと高校の先生方、校長などが協力して優れた教育を提供することを目指す。 <p>《発話》</p> <p>では、委員による意見交換に入っていきたいと思います。今、市教委の佐藤さんから説明を頂きました。今一度、スクールミッション・スクールポリシーについて、確認だけさせていただきます。</p> <p>委員の皆様が、どのような形でご助言であったり、ご提言であったり、さらにはどのようなご支援がいいのか、そういうアイデアをどういう形で出したらいいのか、またそれをどういう形でまとめ上げていくのか、というプロセスについて、少しだけ確認させて頂ければという風に思っています。</p> <p>資料の7ページは、今年度のスケジュールということで、スクールミッションとポリシーについては前ページの6ページにあります。それを往復しながら、というか、見ながら、確認してください。</p> <p>実はスクールミッション・スクールポリシーの策定については、私が先ほど申し上げましたように、私立高校の研修などに携わっているということで、実際に、各校のポリシーを作るような作業を、研修をして、実際にやっているところなんです。</p> <p>やはり温度差というか、早く決定しているところもあるし、まだまだのところもあります。</p> <p>ただ、それを作る過程で、先生方の目線合わせであったり、育てたい資質能力を共有し合うことであったり、とっても大事である。静岡市立高校にしても、桜が丘高校にしても、どこまでできているかというのは、私は存じ上げませんが、検討委員会を契機に、是非やって頂きたいなと思います。</p> <p>そこに私達委員がある意味、“こういうことは、こういう視点が欲しいのではないか。”、“こういうことだったら、それぞれの委員が持っているフィールドでお助けできる。”、更には視点を加えて頂くとか、そういう形でこの委員会を進めていって、スケジュールの中にある11月7日のスクールミッションへの答申のところに、含ませながら、さらに1月のスクールポリシー、本来であれば、スクールポリシーは、各学校が、校長がリーダーシップを発揮しながら教職員で練り上げていくものですが、ただ、市教委が確認をしながら、“じゃあこれでいこう”と、いわゆる設置者である市教委がある意味認めていく。もっと言うとスクールミッション自体は、文科の令和の日本型学校教育の答申等については、設置者が作ることになっているけれど、今回は設置者と学校が、またこの委員会を絡ませながら作り上げていく、そういう捉えて私達委員がいるという捉えでよろしいですね。</p> <p>事務局に確認しながら、皆様方委員だけでなく、今日参加の高校の先生方、校長をはじめ多くの先生方、さらには、今日は参加しませんがこの後の会議ではそういうものを研修会でやられるということであるので、是非より良いものを作りながら、最終的には生徒たちに良い教育が提供できるような、そういうものを作り上げていって欲しいなど。私達は、そういう意味では委員として、視点であったり、助言であったり、また支援を提案するという形で考えておりますけど、事務局の方はそれでよろしいでしょうか。</p> <p>いささか少し長くなりましたけれど、こういうことについては、最初に確認しておくことがやはり大事かなと思いましたので、いざ始めてみたけど、いろんな意見が出てまとまらなかったのでは、済まないことであるかなというふうに思いますし、確認させて頂いて、対応を進めていきたいと思います。長くなりましたけど、各委員の皆様方から、これからの高等学校に期待すること、また、ご自身がどのように関わっていきたいか、または関わっていけることを含めて、予め事務局の方から連絡があったかと思いますが、そういうところをお話し頂きたい。</p> <p>それでは、板倉委員よろしいでしょうか。時間は1分程度とありますが、よろしくお話ししたいと思います。</p>
<p>板倉委員</p>	<p>《要約》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 静岡で20年間大学の教員として働いており、地元の学生についての印象として、素直でおおらかだが、野心に欠けていると感じる。 ● 中学校・高校の段階から選択肢を知り、自分の能力を理解しながらチャレンジする精神が重要ではないか。 ● 新しい学部でクラス担任を務めており、グローバル共創科学部の学生は意欲が高いと感じている。 ● 学生たちは地域に密着したフィールドワークを経験し、自分の地元や日本について学び、アピールできるようになりたいと願っている。 ● 地域に根付いた教育や実践的な教育の重要性について言及し、教育の在り方について考えている。

	<p>《発話》</p> <p>最初は少し緊張してしましますが、冒頭にも申し上げた通り、静岡の高校についても、高校事情についても専門家ではありませんけれど、静大に来てもうすぐ20年になります。20年間大学の教員として、市高なりから来ている学生も含まれますが、何というか、静岡の地元の方って、すごく素直でおおらかで良いのですが、野心に欠けるといふか、折角なのでやればもっと上を目指せるのに、何か小ちんまりと、「私はこれぐらいいいです」と取まってしまふ学生が多いなど感じています。</p> <p>何かその辺り、中学校・高校の段階からいろんな選択肢を知りつつ、自分がどこまでできるかということも、理解しつつ、チャレンジする精神があるといいなと思っています。</p> <p>今年グローバル共創科学部という新しい学部に移りまして、そちらで今一年生のクラス担任のようなことをやっていますが、グローバルにやってきた学生というのは、学部自体が割と学外に出て社会との連携し、いろんな課題に取り組んでいける人材を作ろうということで設置されている学部で、それに反応してきて、比較的県内外から来ておりますけど、意欲は凄く高い学生が出てきており、話をしていくと高校で結構地域に密着したいろいろなフィールドワークを経験していて、その中で自分なりに課題意識をもったと言っていました。</p> <p>それと同時に、改めてそういったことをやりながら、意外と自分の地元のことについて知らないなということを学生たちは感じた。だから大学で自分のいる地域や、あるいは日本という何かについてちゃんと勉強し、それを、アピールできるようになりたいという学生もいました。高校においても大学においても、地域に根付いた、あるいは自分のいる地域や国にプライドを持てるような、きちんと客観的にアピールできるような教育の在り方、実践的な教育の在り方は必要なのかなと感じています。すいません漠然としておりますが。</p>
<p>小俣委員</p>	<p>《要約》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高校生の親として、子供たちに明るく元気で楽しい学校生活を期待している。 ● 高校志願者の選択理由について、距離や学校雰囲気、合格の見込みが主要な要因として示唆。 ● 高校生や中学生は将来の夢ややりたいことをまだ考えておらず、それが現状ではないか。 ● 市立高校が科学探求科に力を入れているが、定員割れがあり、生徒の需要とのギャップがあると感じている。 ● お金や経営についての教育が学校では不足しているのではないか。 ● 高校でのアルバイトについて尋ね、アルバイト経験が社会で通用するスキルを築くのに役立つと提案。 <p>《発話》</p> <p>今、高校生の1年生と2年生の子を持つ親の1人ですが、まず親として、高校に通っている子供に一番期待していることは、やはり元気に毎日楽しく、明るく、登校してもらいたい。親としてはそれだけです。</p> <p>ところで、別紙の参考資料に高校生の志願者があり、現在通っている高校を選択した理由について書いてあります。それが、一番に「自宅から近いから通いやすい」、二番に「学校の雰囲気が良かったから」、三番に「合格できそうだから」。そんなもんですよね。</p> <p>高校生や中学3年生はそういったところで、やはり高校を選ぶときに、あまりまだ将来の夢であったり、やりたいことであったり、そういうことはまだ考えていないというのは現状だと思います。</p> <p>先程、市立高校は科学探求科に力を入れているという話を聞きましたが、そこが定員割れして、生徒が実際求めないものを、学校は力を入れているのかなという、そこにちょっとギャップがある。そんなところが、すごく問題ではないかと思います。</p> <p>あと、やはり経営している中で、自分が一番思うことは、お金を勉強してくればよかったです。本当に学校では教えてくれない。</p> <p>今、桜が丘高校と一緒にエスパルスの出店、商品企画をやっていますが、そういった中で、原価があって、それにコストがかかって、固定費・変動費いろんなものが加わって、値決めがあって、実際、お客さんから選ばれる商品を提供する。そういった本当に基礎的な流れですけど。</p> <p>高校時代とかに、もっとお金の勉強であったり、経営の勉強であったり、そういうのをもっと専門的に取り入れたら、選ばれる高校になるのではないかと思います。</p> <p>ところで、高校はアルバイト禁止ですか？</p> <p>《神田校長》 桜が丘は禁止です。</p> <p>《飯田校長》 市高では、事情がある子供たちは、状況に応じて許可を出しています。</p>

アルバイトは、自分はどんどんやった方がいいと思っていて、やはり自分もそうですが、高校出ても、大学を出ても戦力になりません。その中で、やはり社会に出たときに通用するのは、学生時代のアルバイトであったり、大人と接して働くことの楽しさや提供する喜びであったり、そういったものをたくさん学生時代から経験して、働く楽しさというものを伝えられればいいなと思っています。

金親委員

《要約》

- 少子高齢化の問題の影響は大きく、そんなときだからこそ、数よりも質を高める必要があるのではないかと。
- 全国の市立高校が特色ある取り組みで注目されており、市立高校の利点として、小回りが利き、迅速に対応できることを挙げる。
- 市立高校が地域に貢献し、地域愛を大切にし、地域から愛される取り組みを行うべきだと考える。
- 子供たちのやる気を引き出し、学び方を促進する取り組みが重要。

《発話》

今の資料説明の中で少子高齢化の問題は、非常に大きいなと思いました。そのときに、数を求めてしまっただけでは誤ってしまわないか。このときこそ質を高めてやっていく必要があるのではないかと。このタイミングで、こういう委員会ができて、市立高校が取り組んで行けることは、すごくいいと思います。今、夏の甲子園やっています。私立の高校が非常に多い中、鳥取商業、前橋商業、富山商業、公立の商業高校が、毎回そうですけど、結構出ています。市立高校でいうと、市立和歌山あたりがいます。それから全国的に見て、商業高校の中で特色のある取り組みで注目されている学校は結構あって、例えば、生徒商業研究発表大会での山調ガール、部活動でプレゼンしたりするのですが、それが有名な山形商業、秋田商業、甲子園で有名な明石商業、株式会社組織を作ったことで注目された掛宿商業、それから甲府商業、仙台商業、横浜商業といろいろありますが、これ全部市立です。結構、特色ある取り組みをして注目されている商業は、市立の学校が多いなとていうのを、現役時代から感じていました。“なぜそうなのかな？”ということ考えたときに、やはり県よりも小回りが利く。やろうと思ったときに、思い切って迅速に対応できるというところが、市立高校の良さなのではないか。それから、指導体制とか教育関係についても、県立や私立の学校よりも早く対応できるところが良い所ですね。その良さを、十分に活用して、いろんなことができればいいなと思っています。さっき地域の話も出てきたのですが、やはり市立高校ですから、地域貢献であるとか、地域愛であるとか、地域から愛されることを念頭に置きながら、いろんな取り組み仕掛けをやっていけたらいいなと思います。最終的には、子供たちがやる気になってくれれば、あとは学ぶ方法はいくらでもあるので、その部分に火をつけ、やる気にも火をつけるというところで、いろんな仕掛けや取り組みができればいいのではないかなと思っています。

阪口委員

《要約》

- 生徒の意見を重視し、アンケートだけでなく生の意見を取り入れる必要があるのではないかと。
- スクールポリシー等に関して、学生が認知できる形にすることを一つの目標にてもよいのではないかと。(学生が学校のポリシーや校訓を認知し、誇りに思えるような)。また、高校 1 年生でも理解できるものは大多数の人が理解できるということ。そういう視点と情報を発信することが重要。
- 特化した学科は学校のブランディングに繋がる。学校の特色や科目の違いをアピールし、学科間での交流を促進するアプローチが良いのではないかと。

《発話》

お聞きしていて思ったことが、どこかのタイミングでおやりになるのかもしれないけれど、学校において最も大事なステークホルダー(関係者)である生徒さんが学校についてどう思っているのかという、生の意見をどんどん拾っていく必要があるのかなあという気がしています。先程ご案内のあったアンケートにもありますが、アンケートという形だと与えられた選択肢から選ぶことで、意見が偏りがちなので、例えば、生徒会の子達にログインインタビューするとか、“この学校の特色って何って感じているのか”、“どうしてこの学校に来たのか”、“卒業したときにその学校行って良かったって何に対して感じているのか”、等は結構大事な意見かなと思っています。その辺は、もう学校の先生は普通の会話で把握されているのかなという部分もあるのですが、でもやはりどうしても教員と生徒という関係性は代弁者にはなり得ないのかなと思うので、そこを何とかいい方法で意見吸い上げていけるといいかなと思ったのが一つ。後は今回のスクールポリシー、せっかくいろんな方々で作っていくので、学生が認知するっていうのも一つの目標

	<p>にして頂くことが大事かなという気がしています。</p> <p>今の学校の校訓とか、スクールミッションに近いようなものを定めている場合、学生さんがどれぐらい意識しているのか気になっていて、私の遙か昔の高校時代のことを思い浮かべると、あんまり知らなかったかなというような部分もあったりして、今の学生さんがどうか分かりませんが、そんなに認知度が高くないと仮定すると、今高校1年生が、その校訓を聞いて、この学校は素敵だとか、誇りに思えるっていうのは、ちょっと大事な観点として持っておきたいなど。高校1年生がわかる内容は、結局どんな人にとっても分かり易いというメッセージになると思うので、高校1年生がわかれば、保護者やOBにも通じるものになると思います。</p> <p>3点目としては、今までのミッションを作っていくぞという方向性は別で、学校の長所・短所からいくと、IT人材育成という文脈でずっと仕事させてもらっていますが、その中では高専が非常にブランディングされているというか、人気になっています。</p> <p>一時期、工業高校とかと一緒に、ちょっと人気下がったのですが、ITエンジニアに即戦力になるということで、人気復活してきました、やはり、何かに特化しているということは、今の時代に使い方次第では、すごく魅力になるのかなと思っています。</p> <p>「高校となると普通科にみんな行くもの」というような意識があると思われそうですが、その中で商業があるとか、科学に特化した学科があるというのは、学校の特色であることなので、そこが定員割れするというのは少しメッセージが伝えきれないのかもしれないです。ただ、今後の出し方次第で、その学校自体の強みになるかなと感じています。</p> <p>また、気になっているのは、各学校内で科が違うクラス間でどれぐらい交流があるのかということと、もしかしたら普通科にいても隣に商業をやっている学科があるから、こういう特別な教育を受けられるだろう、ということと言える面白いかと思います。実際は生徒間で交流がないことはあり得ないので、一緒に文化祭やるとこうなるだとか、損益勘定がすごいスムーズになるとか、よく分からないですけど、面白いかと思いました。</p> <p>すいませんバラバラの意見で、以上3つになります。</p>
<p>武友委員</p>	<p>《要約》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高校生と大学生で進学・就職に関する悩みや不安が変わらない。それを解消する必要があるのではないか。 ● 就職を選択する学生の中にはネガティブな理由で進学が難しいために就職するケースがあり、その学生に対してもポジティブな仕事観を育む機会が必要ではないか。 ● 高校の授業において、営業や接客などの社会的なスキルを身につける機会を提供し、知識だけでなく職業観を育成する授業が必要だと考える。 <p>《発話》</p> <p>私は、先に送って頂いている参考資料の中で、高校生自身が将来について気掛かりに思っていることというもので、一番がつけたい職業に就くことができるか、二番目が十分な収入が得られるか、ということで、悩まれている、気掛かりに思っているということでしたが、今私も、かなりたくさんの方と1年間通して関わっていく中で、「悩みが変わってないな」ということがまず一つあります。</p> <p>高校生が3年生ないしは2年生のときに将来を考えた場合に、一度はそこで立ち止まって、そういうことを考えてみるけれども、大学に進学すると、また将来のことを考える時間が1・2年生の間は非常に少なく、3年生で就職活動が始まるようになって、またその将来に対する不満、不安が、そこで大きくなって繰り返されているような、そういう印象を受けています。</p> <p>今学生の中で就職を介してやりたいことを見つけられる方って全体の2%と言われています。そういった高校生から大学生になっても悩みが、「自分自身がどういう職業が向いているのか分からない」、あるいは、「やりたいことの見つけ方が分からない」ということを、解消する必要が一つあるのかなと考えています。</p> <p>もう一つ、3割の桜が丘高校の就職したい方ということなんですが、私、一部の私立の高校の進路行事も担当しておりまして、就職する方が非常にネガティブな理由で、就職しているなという印象を受けています。</p> <p>大体、体感的には5割位かなと思うのですけれども。</p> <p>例えば、大学に行けないとか、いろいろご家庭の事情があって進学が叶わない方が就職しているという事実があって、2年生のちょうど夏ぐらいに、そういった進路がはっきりと分かれた場合に、就職する方が、少し言い方はあれですけど、進学する方よりも少し下に見えてしまうような、そういう印象を正直受けていて、就職する学生・生徒に対して、もう少しポジティブに仕事を捉えられるような機会というのが高校の授業の中にあればいいかなと思っています。</p> <p>あともう一つ、先程、小俣さんがおっしゃっていた仕事に関して、私も実は高校を卒業して大学には進学せず就職をしていて、前職タリーズコーヒーというコーヒ屋の店長だったのですが、そのときに、物を仕入れて売るとか、人を採用して育てることの面白さを勉強できたことで、起業するきっかけを頂いたと思っております。</p> <p>高校の授業の中に、営業という授業がないのかと思ったことがあります。物を売ってみるとか、接客してみるとか、そういった社会との接点を、職業を通じて提供していくということが非常に大事なかなと思います。結局、勉強したことを、知識を、人に提供の仕方が分からないというような、その事実というのが、接客だとか、営業の授業があると勉強できるのではないかと考えていますので、もう少し就職だとか職業観を育成していくような授業というのがあるといいかなと思います。</p>

<p>望月委員</p>	<p>《要約》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 静岡の産業についての情報不足が、学生のキャリア形成に制約を与えていると感じる。学校の授業や情報提供を通じて、静岡の産業に関する知識を広める必要があると考える。 ● 静岡への U ターン学生率の向上が、地域の人材不足の改善と地域活性化に寄与する可能性がある。 ● 少子化やコロナ禍により、コミュニケーション能力の低下を感じる。自己管理能力や問題解決力などのライフスキルの育成が重要で、これらのスキルを持つ学生が静岡で働く可能性を高めると考える。 <p>《発話》</p> <p>皆様の様々な意見を頂く中で、私としては、企業側として、どのような人材が必要とされ、どうしたら地元に着定して頂けるのかとの観点から考えると、やはり先程、板倉先生がおっしゃられた通り、静岡の産業というものに何があるのかということを知らないところが、非常に大きいのではないかと感じます。</p> <p>県外に進学した学生の皆さんの約1/3位しかUターンしてこない現実がある中で、もし地元の産業を、学校の授業で知ることができれば、将来のキャリア形成に対して、“ああいう仕事がある”、“こういう仕事もある”という選択肢が広がっていくのではないかと感じます。</p> <p>将来のキャリアを形成する時に、地域産業の情報が少しでも頭に入っていれば、U ターン率が向上し、今後さらに加速することが予想される静岡における人材不足も改善され、活性化が図られることで、地元社会に貢献できることと思います。</p> <p>もう一つは、業務上様々な高校生・大学生といろいろなお話をさせて頂く中で、昨今の少子化や、コロナ禍が引き金となりコミュニケーション能力が低下しているところを感じます。</p> <p>その他、“自己管理能力”や、問題に直面したときどのような対応をするかという”問題の解決力”、言うならば「ライフスキル」向上の必要性があげられます。これはどんな仕事、どんな勉強にも、必要となる分野であり、生活する上で、大切なスキルであります。この能力開発を行うことで、これまでと違うポリシーを持った学生さんが静岡で働いて頂けるようになると考えております。</p> <p>そんなところを、何か形にできればいいかなと思っている次第です。ありがとうございます。</p>
<p>山内委員</p>	<p>《要約》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生時代の経験から、高校での国公立大学志向が強調される進路指導に違和感があった。 ● 普通科高校等では、特色化が難しいと感じる。 ● 高校の特色化を図るために、大学進学だけでなく、卒業後のキャリア形成にフォーカスするアプローチを提案。例えば、Uターン学生に対するスカラシップやインセンティブを検討してもよいのではないかと。 ● 地域に戻って活躍し、地域愛を持つ人材を育てる高校の役割としての仕組みづくりが大切ではないかと。 ● スクールポリシーやスクールミッションの具体性を模索する際、他の高校のポリシーやミッションを参考にした一覧表が役立つと提案。 <p>《発話》</p> <p>私は学校の仕組みとか、そういう社会的な課題というところまで、ちょっと分からないものですから、自分の実体験で感じたところからお話しさせて頂きたいと思います。私は、こちらの市高を卒業しましたが、高校時代に慣行についての違和感が幾つかあって、一つは、市高は今もそうな分からないですが、当時はとにかく“国公立大学を目指さない”というのがすごく強く、私立に行くより国公立に行くように寄せられていくということにすごく違和感がありました。実際は社会人になって、私自体は私立の首都圏の大学で、一所懸命4年間楽しく遊んで、もう遊び尽くしたので、もう帰ろうかなと思って戻って来ましたが、本当に地方の国公立で4年間のんびり過ごすことが幸せなのかどうかということも、少し自分としては違和感がありました。</p> <p>また、周りの市高以外の友人などを見ると、結局高校の実績というは、“国公立に何人に入りました”とか、“早稲田慶応を2人入りました”とか、“東大出しました”みたいなことも、その卒業後の進路というのが一つの実績になっていて、それで、親が「市高いいんじゃないの」、「東高いいんじゃないの」のような議論になるので、なかなか特色化を出すのは難しいのかなと思います。それであれば、一つの提言として、これはポイントが合っているのか分かりませんが、大学だけじゃなくて、その後の先のキャリア形成というところまで、高校で何か示して特色を出すのがいいのかなと。具体的に言うと、先ほど金親先生の方から「市立高校は数が少ないゆえに小回りがきくのではないかと」というお話がありました。例えば、市高や桜が丘を卒業して、一定のレベルの大学を卒業してUターンしてきた生</p>

	<p>徒には大学4年間生活費か何かを全部出すみたいなスカラシップを新設するとか、もしくは卒業して大学行って、一番いいのは30歳位まで県外で働いて、揉まれた奴が静岡に戻ってきてまた活躍するというのが一番理想的だと思いますが、そういったところに対して、何か手当をする、インセンティブを与えるみたいな、その卒業後のところまでを何か少しフォローするというのは、面白いのかなと思います。市立高校というのは市のお金で運営している機関ですので、多少そこに何百万、何千万かけたとしても、結果的に優秀な人材が静岡に戻ってきて、定着して、税金を払うというのは、十分に魅力ある施策なのではないか思います。</p> <p>また、先程、武友さんの方から、就職がネガティブという話がありましたが、それに私も同じ感覚で、またこれから、なかなか経済環境が日本は上がっていかないというときに、経済的理由で進学を諦める生徒が増えてくると思います。そういった者を救う何か一つのきっかけになるのかなと。例えば本人に静岡に行く力があったのだけでも、静岡に行っても大学に行けないかもしれない、もしくは本当だったら早稲田・慶応に行ける力があるに、そこ落ちたらいけないから、何か自分で我慢してしまうみたいな人を市高で救ってあげる、優秀だったら、東京の私立に行つて、いずれ静岡に戻ってくれば学費も、全部戻ってくる、そういった餌じゃないですが、そういったインセンティブを与えるというのも面白いのではないかなと。</p> <p>少しまとめますと、この学校のポリシーというのは、どういうレベルのものかは理解できていませんが、育った人材を、いい大学に入れるということがゴールではなくて、その大学を出た後に、ちゃんと静岡に戻って来て、静岡の経済界の中で活躍してくれる。またそこに地域愛を持たせるという、そこまでを高校の中で仕組みとして何か作るのが面白いのではないかと思えます。</p> <p>あともう一点、先ほど各校のこれからポリシーとスクールミッションというのを議論していくという話がありましたが、私どういものが適切なのか分からなくて、市高でいうと、質実剛健とって言葉があって、それで文武両道と言われても、そういうものが、例えばポリシー・ミッションであれば、少し具体性に欠けるのかなと思います。</p> <p>ですから一つの今後の我々委員の中の参考例として、例えば市内の高校もしくは県内の高校のそれぞれのポリシーとミッション、何か一覧表みたいなものがあると、頭の中の整理が進むかなと思うので、もしお手間でなければ、共有させて頂きたいと思います。お願いします。</p>
<p>志村委員長</p>	<p>《要約》</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各委員からの多様な意見を受けて、各学校は自身の教育活動を点検し、それをどういいう生徒を育てたいのかに結び付けながら、そのために何をやるのかという、そういう階層を立てて作ってもらいたい。それが「ミッションスクールポリシーって何」というところだと思ふ。 ● スクールポリシーとスクールミッションに魂を入れ込む責任は学校の先生方にあり、校長のリーダーシップのもとで進めるべきと提案。 ● スクールポリシーとスクールミッションは常にバージョンアップし、アップデートされるべきと提案。 <p>《発話》</p> <p>本当に、それぞれの委員のご専門の見地からいろんなご意見を頂けたのではないかなというふうに思います。私は、冒頭お話しさせて頂いたように、それぞれの学校が、やはり自分たちの学校を今一度立ち返って、それぞれの学校が実践している教育活動について、ぜひ点検してもらいたいというふうに思っております。そして、それをどういいう生徒を育てたいのかに結び付けながら、そのために何をやるのかという、そういう階層を立てて作ってもらいたいなど。それが今おっしゃった、「ミッションスクールポリシーって何」というところだと思ふ。</p> <p>やはり、“具体の行動があってなんぼかな”というふうに思いますので、それを作り上げてもらいたいというのが本委員会に期待するところです。もっと言うと、やはり作ったスクールミッションやスクールポリシーに息を吹き込み、魂を入れ込むところまでは、学校の先生方がやはり責任持ってやってもらいたい、熱意を持ってやってもらいたいというふうに思っています。そしてスクールポリシー・スクールミッションは、最終的には校長のリーダーシップのもと、各学校の先生方が、この委員のご意見や、ご提言であったり、支援であったりうまく取り込みながら、取り組みながら作り上げていくものだと思います。</p> <p>そして、それを常にバージョンアップ、またアップデートしていく。そういうような形でやっていってもらいたいということをおの委員会に対して、私の意見とさせて頂きます。</p> <p>会の運営がまことに拙くて、本来であればもう休憩も終わっている時間となりましたが、最初の一言ずつということでお許し頂ければと思います。では事務局にお返ししたいと思います。</p>

第1回 静岡市立の高等学校特色化・魅力化検討委員会

日時： 令和5年8月21日(月) 14:00～

場所： 静岡市立高等学校 会議室

会次第

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 事務局等紹介
- 4 委嘱状交付
- 5 委員紹介
- 6 委員長選出
- 7 事務局説明
- 8 委員による意見交換
- 9 閉会
- ※ 休憩(10分)
- 10 各校プロジェクトチームによる情報共有
- 11 次回のお知らせ、施設見学

静岡市立の高等学校特色化・魅力化検討委員会委員名簿

氏名	備考
いたくら みなこ 板倉 美奈子	静岡大学 グローバル共創科学部 教授
おまた けんいち 小俣 憲一	(株)KOU 専務取締役
かねおや のりゆき 金 親 徳行	常葉大学 入学センター 進学アドバイザー (元静岡県立静岡商業高等学校校長)
さかぐち せりな 阪口 瀬理奈	市民委員
しむら たけかず 志村 剛和	常葉大学 法人本部 指導主事 (元静岡県立静岡高等学校校長)
たけとも くみ 武友 久美	市民委員
もちづき ゆうすけ 望月 祐輔	(株)天野回漕店 総務部 人事課長
やまうち たかし 山内 崇資	(株)TOKAI ケーブルネットワーク 企画部 部長

(五十音順、敬称略)

以上 8名

第1回
静岡市立の高等学校
特色化・魅力化検討委員会
事務局説明資料

静岡市教育委員会

なぜ今、静岡市立の高等学校の改革が必要なのか

【日本の教育をめぐる現状・課題・展望】

VUCAの時代(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)

ポストコロナ時代への移行

価値観・ライフスタイルの多様化

人口減少、少子化、高齢化

DXの推進(AI・ロボット・グリーン等)

国際情勢の不安定化(ロシアのウクライナ侵攻)

グローバル化

地球規模課題

18歳成年

【国(文部科学省)の動向】

1. 高等学校学習指導要領(平成30年告示、令和4年度実施)

- ① 社会に開かれた教育課程の実現
- ② 各校におけるカリキュラム・マネジメントの実現

2. 中教審答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(令和3年1月)

(新時代に対応した高等学校教育の在り方について)

- ① 各高等学校の存在意義・社会的役割等の明確化(スクール・ミッションの再定義)
- ② 各高等学校の入口から出口までの教育活動の指針の策定(スクール・ポリシーの策定)
- ③ 「普通教育を主とする学科」の弾力化・大綱化(普通科改革)
- ④ 新しい時代にこそ求められる総合学科における学びの推進
- ⑤ 関係機関(大学・研究機関、地域、企業等)と連携・協働した高度な学びの提供

NEW!!

3. 教育振興基本計画(令和5年6月閣議決定)

★基本計画の核となる2つのコンセプト

- ① 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の担い手の創造
⇒ 人への投資が重要!
- ② 日本社会に根差したウェルビーイングの向上
⇒ 経済的豊かさ+精神的豊かさ&健康=幸福
⇒ 日本らしさ「人とのつながり」を大切に

【本市の動向】

1. 第4次 静岡市総合計画(令和5年～令和12年)

★5大重点政策

- ① 子どもの育ちと長寿を支えるまちの推進
- ② アートとスポーツがあふれるまちの推進
- ③ 城下町の歴史文化を守り抜くまちの推進
- ④ 港町の海洋文化を磨き上げるまちの推進
- ⑤ オクシズの森林文化を育てるまちの推進

2. 第3期 静岡市教育振興基本計画(令和5年～令和12年)

～たくましくしなやかな子どもたちを育てるために～

- 方向性1 **子どもの知・徳・体の育成**
- 方向性2 一人ひとりの幸福の実現と多様性の損料
- 方向性3 教育環境の整備・充実
- 方向性4 協働してつくる持続可能な学びの推進

特色ある
高等学校教育
の推進

静岡市立の高等学校を取り巻く現状

【外的要因】

- ★ 私学授業料無償化による**私立高校**進学者の増加
- ★ 多様な学びのニーズに対応する**通信制高校**進学者の増加

市内のある中学3年生
のクラス



あっという間に3月15日・・・
中学生活もあと少しになりました。

私立高校
への進学者
36%



通信制高校
への進学者
約6-7%

少ない中3生
をめぐり
公立高校で
争奪戦

2030
静岡市人口
約65万人

【内的要因】

- 一部の学科における不安定な倍率
- 行事、授業、その他教育活動の目的・意義に曖昧さが多い
- 時代にあった学びへの対応遅れ
- 産学官民との連携不足
- 時代の変化に伴う中学生や保護者ニーズへの対応遅れ

今こそ、産学官民 みんなの力で

静岡市立の高等学校を
今よりもっと選ばれる学校に

静岡市立の高等学校で
次代に必要な人材育成を

令和9年の2高校の新生を目標に、
高等学校の特色化・魅力化を推進します！

資料の構成

本検討委員会の目的・背景

1. 特色化・魅力化推進事業の体制(検討委員会と各校PT)
2. 特色化・魅力化推進事業のスケジュール
3. 令和5年度のタスク
4. 令和5年度のスケジュール
5. 静岡市立の2高等学校の概要
6. 国の方向性

《参考資料》

- ①将来の高校入学者見込み数
- ②公私別高校生徒数推移

1 特色化・魅力化推進事業の体制

令和5年度の取組 **改革大枠(ミッション・ポリシー)の決定**

特色化・魅力化検討委員会(8名)

2高校における特色化・魅力化に関する事項について、
①調査審議する ②教育委員会に意見を述べる

- | | | |
|-------|-------------------------|--|
| 【教育3】 | ①市内の大学
②③高等学校元校長 | … ミッション・ポリシー策定・グローバル人材育成の知見
… 高校経営に関する知見、普通・理数・商業教育への知識 |
| 【産業3】 | ④⑤卒業生のいる企業
⑥地元愛・起業精神 | … 地域に根付いた企業の知見、2高校生徒への理解
… 静岡市の活性化・アントレプレナーシップへの知見 |
| 【市民2】 | ⑦⑧公募による選出 | … 「次代の高等学校での学び」に対する建設的な意見 |



PTでの意見交換(3-4回)



答申(①ミッション,11月 ②ポリシー, 1月)

各校のプロジェクトチーム

2高校における特色化・魅力化の推進に向け、

- ①各校の魅力・課題を整理する
- ②スクール・ミッションおよびスクール・ポリシーの素案を作成する
- ③答申を受け、素案を修正する

【静岡市立高等学校】

・管理職+教諭 計8名

【桜が丘高等学校】

・管理職+教諭 計12名



市教委
教育総務課

※ 月に1、2回開催

2 特色化・魅力化推進事業のスケジュール

5

令和5年度
改革大枠の決定

- ・検討委員会の設置 ・先進校への視察
- ・**スクール・ミッションの再定義** と **スクール・ポリシーの策定**

令和6年度
取組の検討・決定

- ・特色化・魅力化の方向性にあった教育活動や施策について検討し、**教育課程編成の材料**とします。

令和7年度
教育課程の検討決定

- ・特色、魅力ある学び実現のため、中学生や保護者の**ニーズ**に合った**教育課程を編成**します。

令和8年度
R9入学生に対する周知

- ・中学生や保護者等に対し、**どのような学びのもと、どのような力を育成する学校なのか**を発信します。

令和9年度
2高校の新生

- ・新しい教育課程のもと、**未来の静岡をけん引する人材育成につながる学び**をスタートします。

3 令和5年度のタスク

特色化・魅力化の大枠の決定＝スクール・ミッションの再定義＋スクール・ポリシーの策定

時代の潮流を受け、これまでの「校訓」「学校教育目標」「目指す学校像」をアップデートが必要

スクール・ミッション

学校
設置者

校訓等に加え、①学校の特徴 ②魅力的な教育 ③将来の生徒像
を取り入れた「学校の社会的役割」を学校設置者が再定義する

特色化・魅力化の要

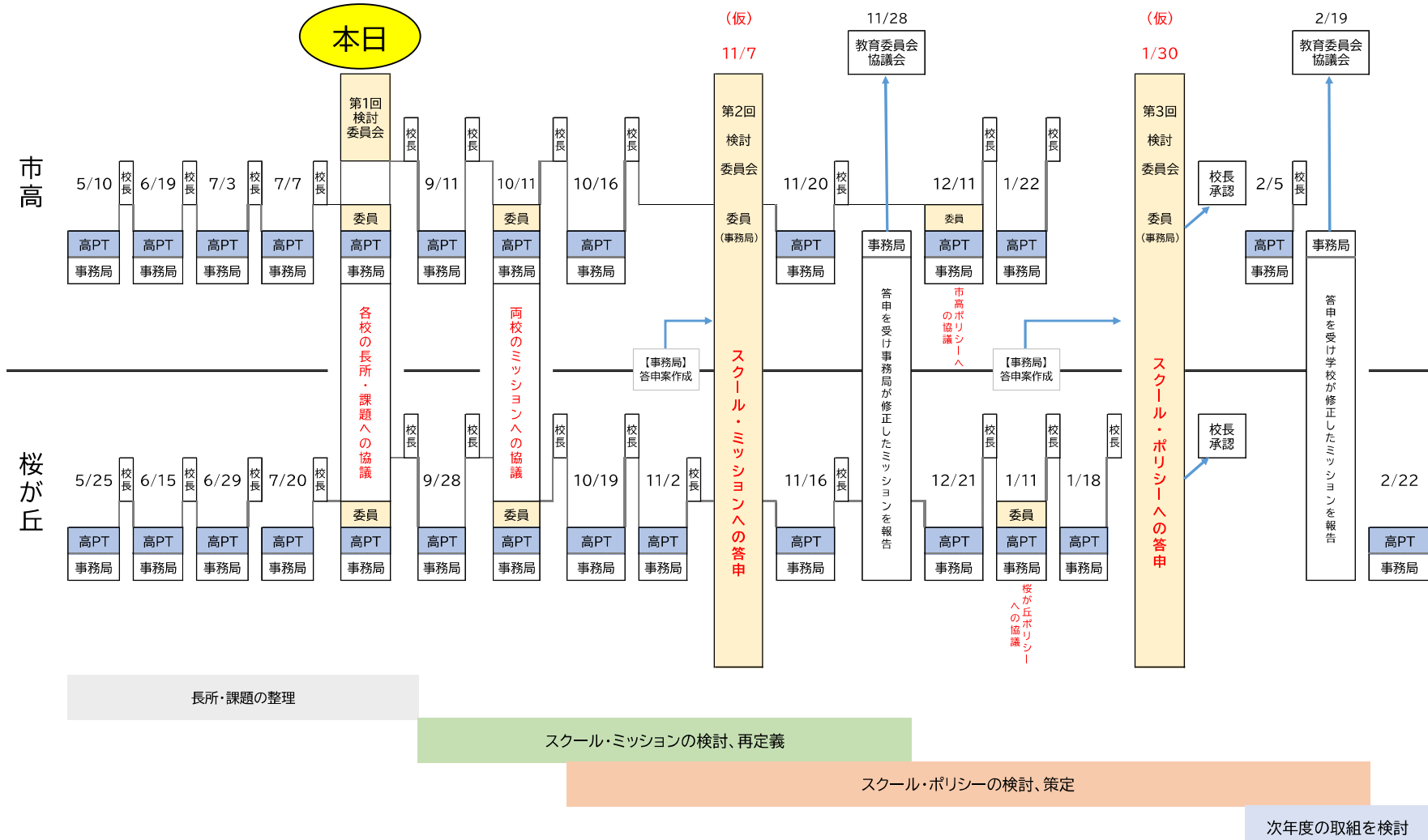
スクール・ポリシー

【令和3年3月】学校教育法施行規則の改正
⇒ R6年度末までに公表が義務付け



学校

- A: グラデュエーション・ポリシー（卒業までに育成を目指す資質・能力に関する方針）
- B: カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施に関する方針）
- C: アドミッション・ポリシー（入学者受け入れに関する方針）

4 令和5年度のスケジュール



5 市立の2高校の概要 (1) 概要

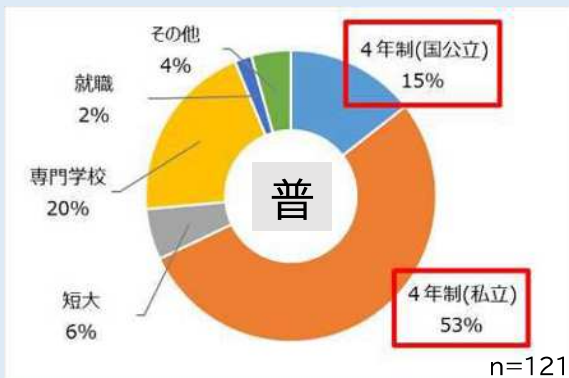
	 清水桜が丘高等学校	 静岡市立高等学校
全校生徒	706人(男 354人、女352人)	966人(男 479人、女 487人)
学科	普通科	商業科
募集定員	120	120
学級数	3	3
沿革	平成25年 静岡市立清水商業高等学校、静岡県立 庵原高等学校が統合し、静岡市立清水桜 が丘高等学校として開校	昭和23年 静岡市立高等学校 開校 平成23年 科学探究科 設置 平成25年 文科省スーパーサイエンスハ イスクールに指定
教育目標	校訓「礎」 自己実現に向かって挑戦し、未来 を切り拓くたくましい若者を育て る。	「質実剛健」の気風を継承し、校訓 「正しく、強く、明るく」を基に、「文 武両道」を目指し、地域社会や国際 社会に貢献できる、調和のとれた 創造的な人間を育成する。

生徒数は令和5年5月1日現在

5 市立の2高校の概要 (2) 令和4年度 進路状況

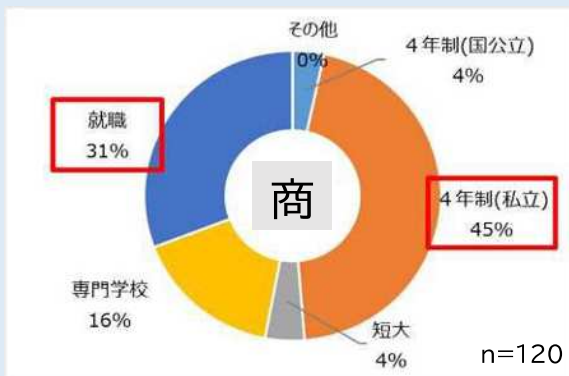
清水桜が丘高等学校

静岡市立高等学校



・桜が丘(普)の生徒の約70%の生徒が4年制大学へ進学する

・桜が丘(普)の2人に1人が私立大学へ進学する



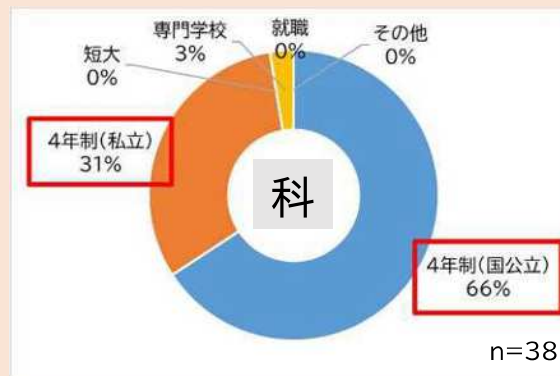
・桜が丘(商)の生徒の2人に1人が4年制大学へ進学する

・桜が丘(商)の3人に1人が就職する



・市高(普)の生徒の90%以上が4年制大学へ進学する

・市高(普)の2人に1人が国公立大学へ進学する



・市高(科)の生徒のほぼ全員が4年制大学へ進学する
(R4:短大は1名のみ)

・市高(普)の3人に2人が国公立大学へ進学する

市高は国公立大学を中心に4年制大学へ進学、桜が丘(商業科)も7割は進学です。

5 市立の2高校の概要 (3) 部活動実績 (東海大会以上)



清水桜が丘高等学校



静岡市立高等学校

年度	全国	東海
過去5年間 (H30-R4)	男子ハンドボール部 女子ハンドボール部 男子バレーボール部 ワープ口部 報道部 美術部 棋道部 陸上競技部 吹奏楽部	男子ハンドボール部 女子ハンドボール部 男子バレーボール部 サッカー部 野球部 陸上競技部 水泳部 卓球部
令和5年度	女子ハンドボール部 ワープ口部	女子ハンドボール部 サッカー部

年度	全国	東海
過去5年間 (H30-R4)	硬式テニス部 水泳部 体操競技部 マンドリン部	硬式テニス部 水泳部 陸上競技部 ソフトテニス部 弓道部 マンドリン部 吹奏楽部
令和5年度	硬式テニス部 水泳部 陸上競技部 体操競技部 マンドリン部	硬式テニス部 水泳部 陸上競技部 体操競技部 女子ソフトテニス部 マンドリン部

文武両道、2校の生徒ともがんばっています！

5 市立の2高校の概要 (4) 志願倍率の推移 (H25年度～R5年度)



清水桜が丘高等学校
★開校11年目

【静岡県公立高校】R5年度入試 平均志願倍率: 1.04

学科	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	
普通科	倍率	1.24	1.04	1.31	1.25	1.20	0.89	1.04	1.06	1.21	1.08	1.23
	受検者数	199	166	210	200	192	143	166	169	145	130	148
	定員	160	160	160	160	160	160	160	160	120	120	120

学科	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	
商業科	倍率	1.20	1.09	1.28	1.26	1.28	1.16	1.18	1.12	0.88	0.86	1.10
	受検者数	144	131	153	151	154	139	141	134	105	103	132
	定員	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120

- ・普通科は 開校6年目に定員割れ+定員程度の倍率 ⇒ R3年度1クラス分(40名)の定員減
- ・商業科は 開校9年目、10年目に2年連続定員割れ



静岡市立高等学校
★開校84年 ★科探科13年目

学科	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	
普通科	倍率	1.27	1.17	1.28	1.19	1.22	1.32	1.21	1.27	1.16	1.22	1.29
	受検者数	355	327	357	332	342	369	338	356	325	341	361
	定員	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280	280

学科	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	
科探科	倍率	1.20	1.40	1.25	1.13	0.93	1.13	1.25	1.13	1.05	1.35	0.93
	受検者数	48	56	50	45	37	45	50	45	42	54	37
	定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40

- ・普通科は 他の公立高校と比較し、安定した人気を維持している
- ・科探科は 倍率が不安定、設置13年で2度の定員割れ(定員-3)

一部の学科で志願倍率が不安定な状況

6 国の方向性 (1) 学習指導要領の変遷

年	内 容
1947 (昭和22年)	アメリカの「Course of study」を参考にした最初の学習指導要領の試案 【ポイント】 アメリカ式の経験主義、児童中心の現場の創意工夫に任せる教育観→ アメリカ式ではだめ、もっと知識を教えるべきとの声多数
1951 (昭和26年)	初版の不十分な点を整備(全面改正) 【ポイント】 国語、数学、理科、社会、外国語+保健体育、芸能、家庭、職業、工業、商業、水産、家庭技芸、その他特に必要な教科 → 子どもたちの学力低下、スポーツニクショックによる人材養成の声多数
1958-1960 (昭和33~35年)	基礎学力の充実・科学技術教育の向上 【ポイント】 詰め込み教育のはじまり、道徳教育の新設 → 学校間序列の誕生、公立学校での補習、学習塾の誕生
1968-1970 (昭和43~45年)	教育内容のさらなる向上・増加 【ポイント】 「教育内容の現代化」がスローガン、教える内容の更なる増加 → 受験戦争の激化、小学生の塾通い、落ちこぼれの排出
1977-1978 (昭和52~53年)	ゆとり教育の始まり 【ポイント】 教育内容の精選、各教科の標準時間数を削減 → 校内暴力、いじめ、不登校が顕在化、受験戦争も継続
1989 (平成元年)	心豊かな人間の育成 【ポイント】 科学技術の進歩+経済発展=新しい学力観、学校週休5日制の導入 → 日本型経営の崩壊に伴い、学級崩壊・非行歴のない子どもの犯罪の社会問題化
1998-2000 (平成10~11年)	「生きる力」の育成(ゆとり路線さらに強化) 【ポイント】 教育内容の大幅削減、「総合的な学習の時間」の創設、完全学校週5日制の導入 → ゆとり教育の促進
2008-2009 (平成20~21年)	「生きる力」の育成(脱ゆとり教育) 【ポイント】 授業時数の増加、指導内容の充実、小学校外国語活動の導入 → ゆとり教育による学力低下はわからないまま
2017-2018 (平成29~30年)	「生きる力」の育成(新しい時代に必要な3つの柱を育む) 【ポイント】 ①アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善 ②カリキュラム・マネジメントの促進 ③小学校外国語科の新設 → 時代の変化が加速、10年を待たずに改訂か

学習指導要領とは
全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文科省が定めている教育課程(カリキュラム)の基準。

6 国の方向性 (2) 教育振興基本計画 [令和5年6月閣議決定]

13

教育振興基本計画とは

教育基本法に基づき、政府が策定する教育に関する総合計画、5年ごとに見直され、今回は第4期(2023-2027)にあたる。

【2つのコンセプト】

① 2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の担い手の創造

少子化、人口減少、都市と地方の格差

地球規模課題、戦争

Society5.0、予測困難な時代、人生100年時代

人への投資が重要

主体性、リーダーシップ、創造力

課題設定・解決能力、論理的思考力

表現力、チームワーク

② 日本社会に根差したウェルビーイングの向上

ウェルビーイング:

経済的豊かさ + 精神的豊かさ & 健康 = 幸福

日本社会に根差した:

[日本のオリジナル] 2つの**バランス**と**相互作用**に基づくウェルビーイング

獲得的要素

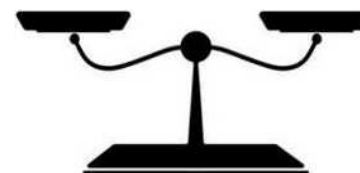
(個人が獲得する要素)

自尊感情・自己肯定感

調和的要素

(人とのつながりの要素)

利他性・協調性・社会貢献意識



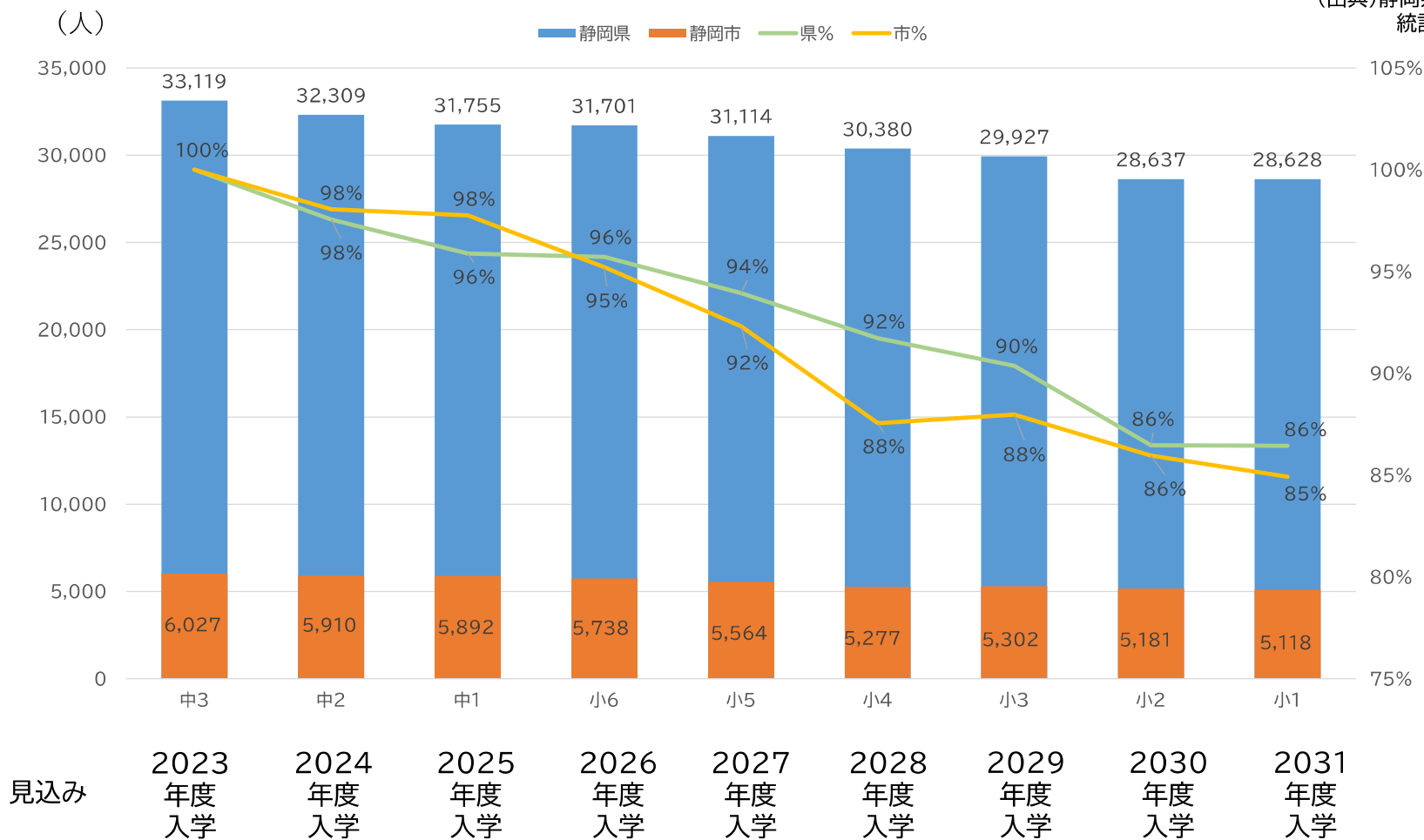
6 国の方向性（2）教育振興基本計画〔令和5年6月閣議決定〕

【5つの方針】

- ① **グローバル化する社会の持続的な発展にむけて学び続ける人材の育成**
 - ★主体的に社会の形成に参画する態度の育成
これからの時代に必要なもの、自分にできること、自分の得意なことで何かの役に立てないか
 - ★価値創造の志向
自分の仕事に新しい要素を加えたらどうなるか
- ② **誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進**
 - ★個人だけでなく社会全体のウェルビーイングを高める
- ③ **地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進**
 - ★持続可能な社会とウェルビーイングの実現には、学校だけでなく地域・家庭との連携が重要
- ④ **教育デジタルトランスフォーメーションの推進**
 - ★デジタル機器の活用→情報活用能力の育成、学習機会の保障、教員業務の効率化、教育の質の向上
- ⑤ **計画の実効性確保のための基盤整備・対話**
 - ★①から④を可能にするには、環境や関係整備が重要

《参考》将来の高校入学者見込み数

(出典)静岡県教育委員会「令和4年度学校基本統計(学校基本調査報告書)」

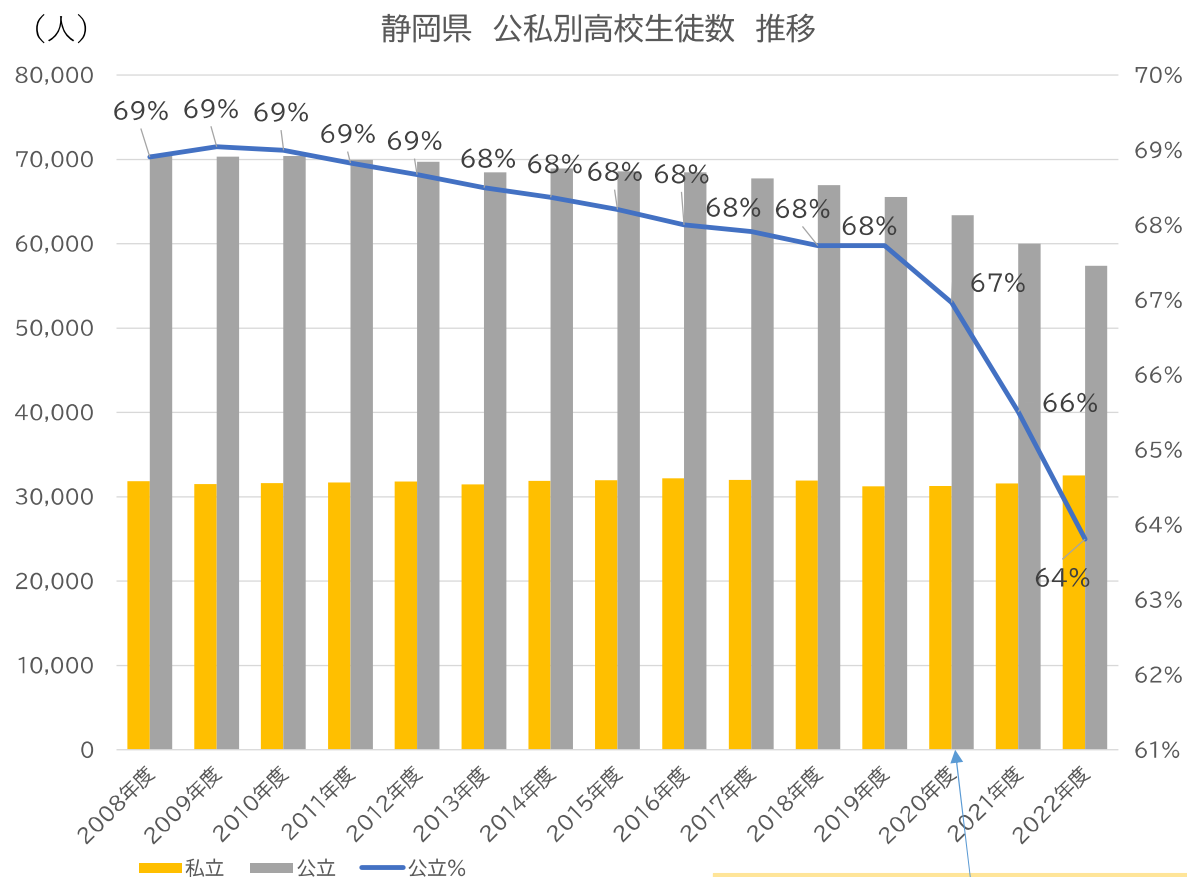


●2023年年度入学生(中3生徒数ベース)を100とした場合、8年後には85になってしまう。
 県▲4491人
 市▲909人

●県よりも静岡市の方が減少のタイミングが早い

←2022年5月時点の学年

《参考》高校生徒数推移（公私・課程別）



(出典)「政府統計の総合窓口(e-Stat)」

※e-Stat は各府省等の参画の下、総務省統計局が整備し、独立行政法人統計センターが運用管理を行っている政府統計のポータルサイト

私立高校 授業料無償化
2020年4月～

中学校からの高校進学者数 課程別

静岡県全体

年度(西)	合計	全日制	定時制	通信制	通信%
2018年度	33,580	31,644	719	1,217	3.6%
2019年度	32,782	30,722	730	1,330	4.1%
2020年度	32,298	30,113	755	1,430	4.4%
2021年度	30,992	28,841	550	1,601	5.2%
2022年度	29,796	29,219	577	1,806	6.1%

静岡市

年度(西)	合計	全日制	定時制	通信制	通信%
2018年度	6,254	5,784	190	280	4.5%
2019年度	6,056	5,558	177	321	5.3%
2020年度	6,137	5,613	176	348	5.7%
2021年度	5,649	5,132	117	400	7.1%
2022年度	5,472	5,362	110	395	7.2%

(出典)静岡県教育委員会「学校基本統計(学校基本調査報告書)」平成30年度～令和4年度

- 2020年の私立高校授業料無償化を機に 公立→私立の流れが加速している。
- 通信制の入学者の割合も増加しており、特に静岡市は県より割合が高い。